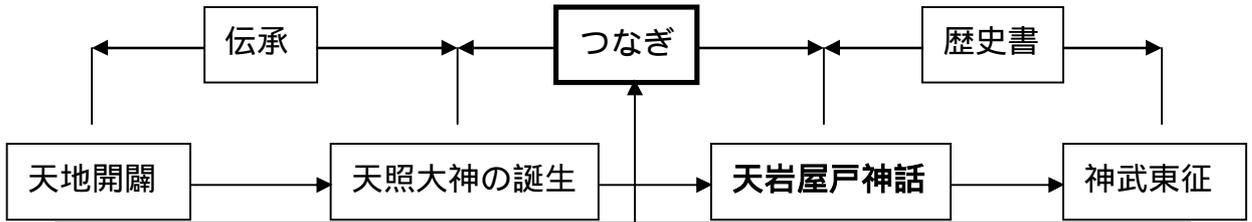
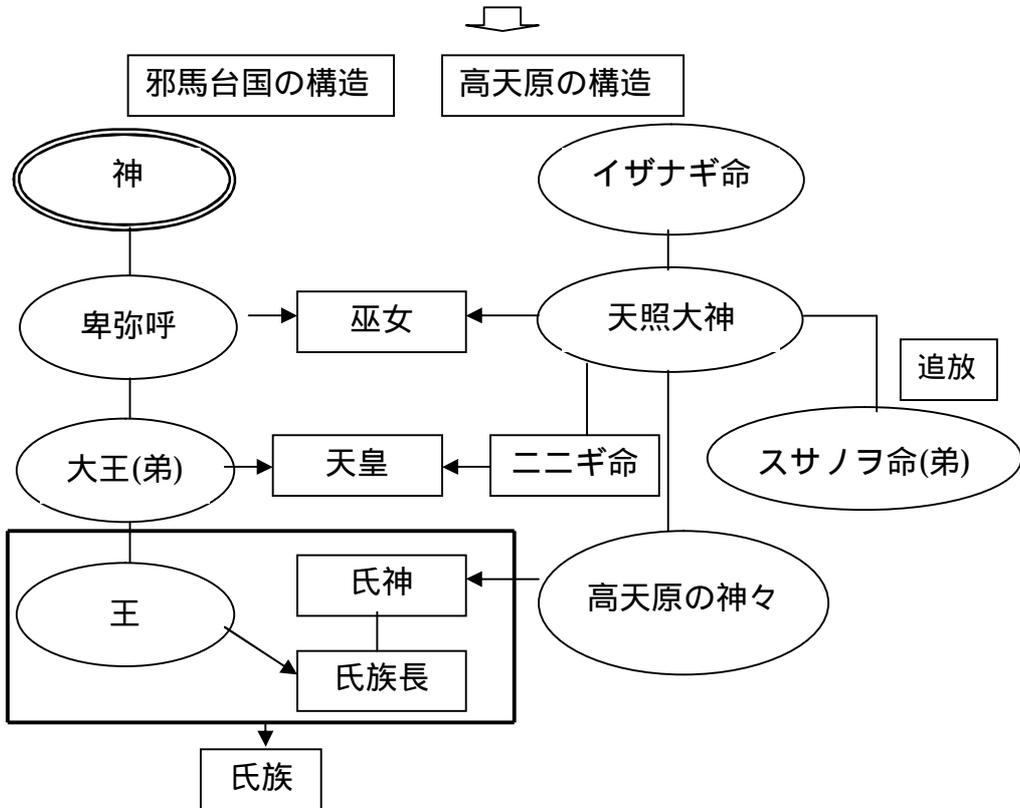
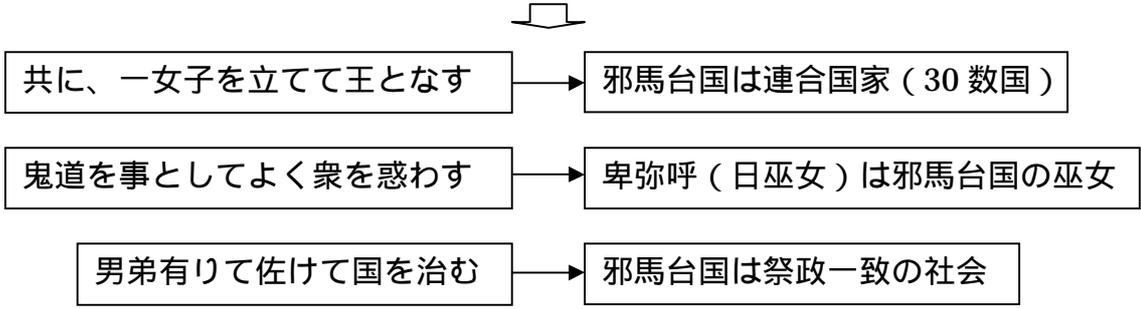


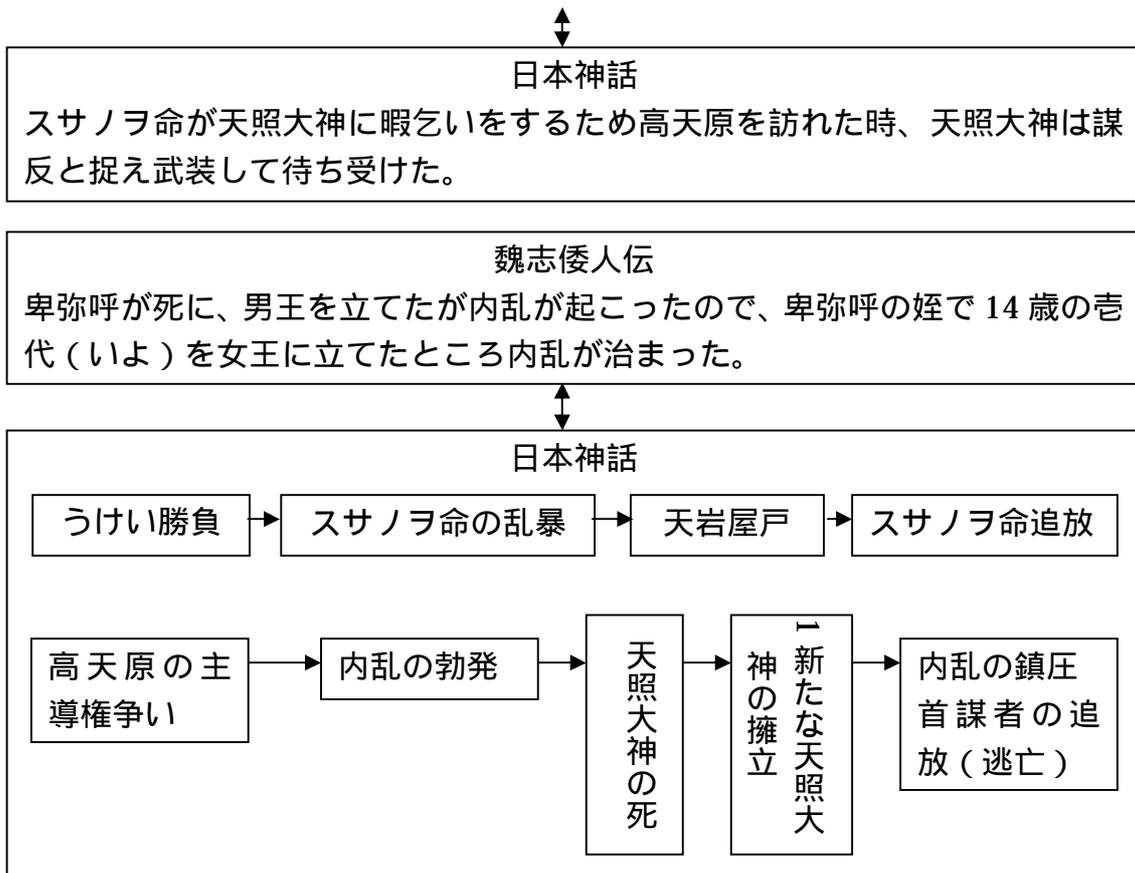
(1) 日本神話と魏志倭人伝 (西暦 231 年)



魏志倭人伝
 すなわち共に、一女子を立てて王となす。名を卑弥呼という。鬼道を事としてよく衆を惑わす。年長大にして夫婿なし。男弟有りて佐けて国を治む。王となりてより以来、見るもの少なし。



魏志倭人伝
 この頃、南の狗奴国(くなく)と戦争状態にあり、魏(中国)に支援を求めた。



（参考）魏志倭人伝の概要

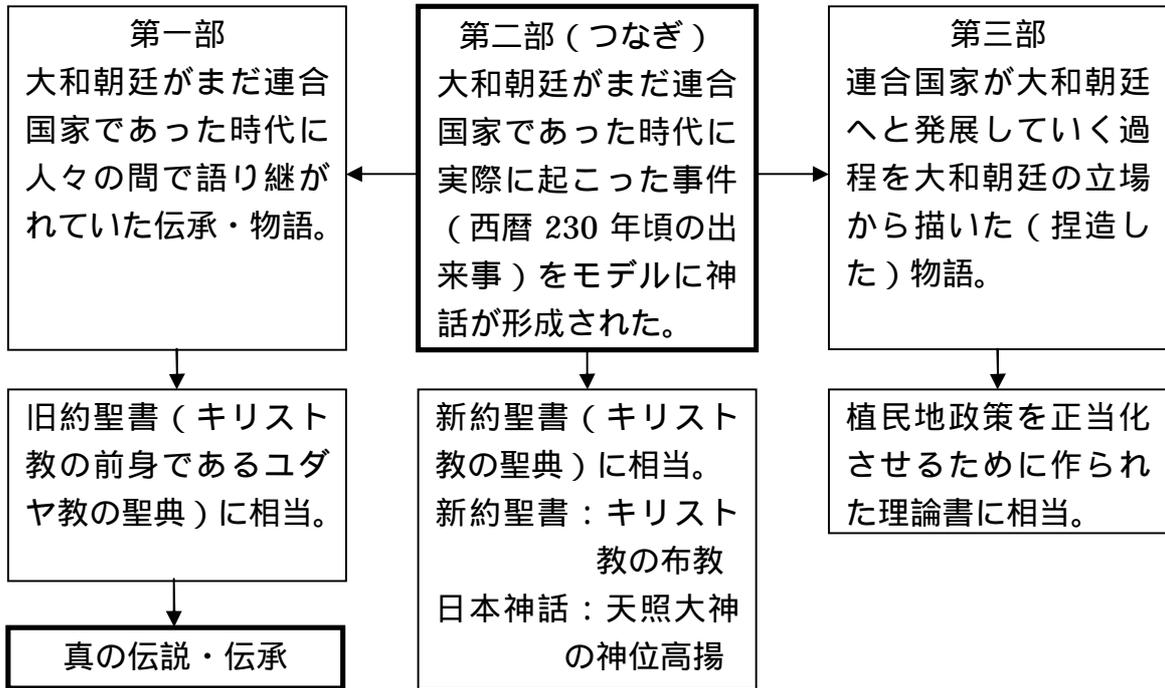
項目	内容
場所	方角・距離がいい加減でどこにあったのか確定できない。
社会秩序	身分制度が確立していた。
社会情勢	隣国狗奴国との戦争に苦戦しており、魏に支援を求めた。
習俗	全身に刺青をし、漁労生活を行っていた。（博多近辺の習俗）
卑弥呼の死	男王を立てたが国内が乱れたので、壹与を後継者とした。
壹与の使節	即位後、魏に使節を送り、皇帝から銅鏡 100 枚を拝受した。

魏の使者は邪馬台国の首都まで行ったわけではなく、直接卑弥呼に会ったわけでもない。博多（福岡県）近辺で卑弥呼の使節と面会しただけ。魏の使節が卑弥呼の使節から聞いた内容が魏志倭人伝に記載してある。

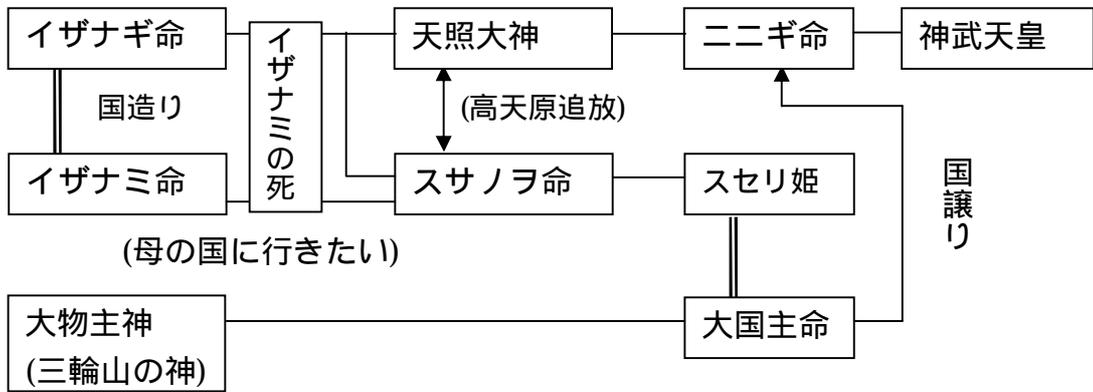
つまり、会談の内容は正確に記載してあるが、それは単なる卑弥呼の使節からの伝聞にすぎない。

（２）日本神話の分析

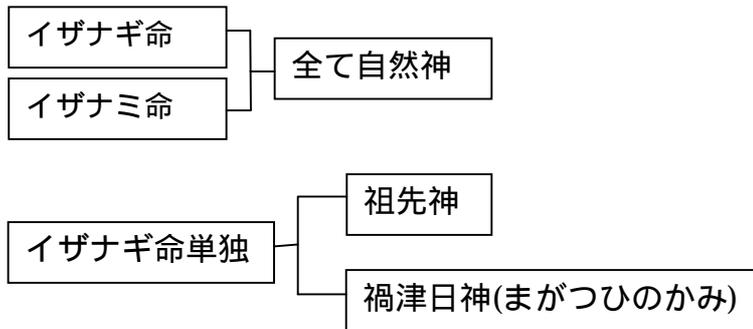
日本神話の位置付け



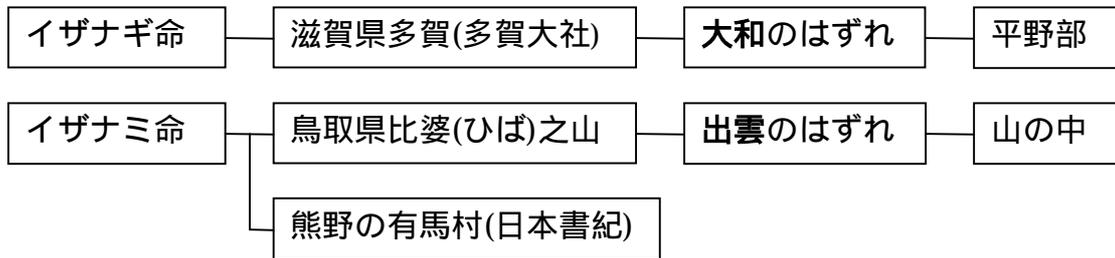
神々の系譜
(神話の流れ)



(神々の誕生)



(埋葬地)



つまり

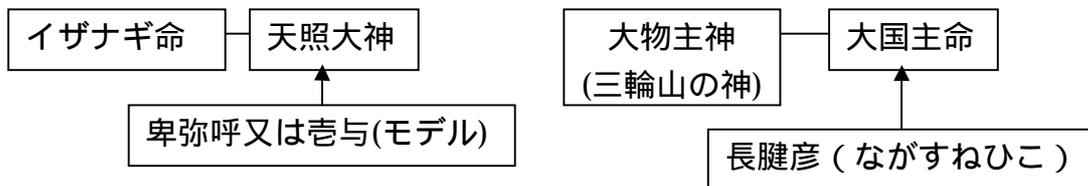
イザナギ命は大和系、イザナミ命は出雲系の神様で系統が異なる。
祖先を神様とするのは満州や朝鮮半島に古くからある信仰（大和系）、
自然を神様とするのは南方（中国南部・フィリピン・南太平洋の島々）に住む人々の信仰（自然の恵み）、
中国の二大思想
儒教：黄河流域で発達した思想で「祖先崇拜」が原点。
老荘思想：揚子江流域で発達した思想で「自然との一体化」が原点。

イザナギ命：満州や朝鮮半島から渡来した人々が戴く神様の総称。（弥生人）
イザナミ命：中国南部やフィリピン・南太平洋の島々から渡来した人々が戴く神様の総称。（縄文人）

(3) 梅原猛説

1) 神々の流竄

大国主命は出雲の神様でなく、神武東征以前に大和地方に住んでいた人々が信仰していた神様で、神武東征に最も激しく抵抗した人々の神様。



大国主命神話の舞台は出雲ではなく大和。

敗者の神、大国主命は出雲に流され出雲大社に祭られた。

2) 大国主命神話の謎

大国主命神話は日本書紀(正式の国史)には全く記載されていない。つまり、日本書紀には記載できない物語。

大国主命神話と天孫降臨神話の矛盾

) 大国主命が国譲りをしたのは出雲の国(島根県)であり、常識的に考えればニニギ命(天照大神の孫、ニニギ命の孫が神武天皇)が降臨される場所は出雲になるはず。ところが、何故か高千穂の峰(宮崎県)に降臨されている。

) 古事記・日本書紀とほぼ同時代に編纂された出雲風土記(出雲地方の歴史や伝承を纏めた書物)には大国主命に係わる神話は記載されていない。

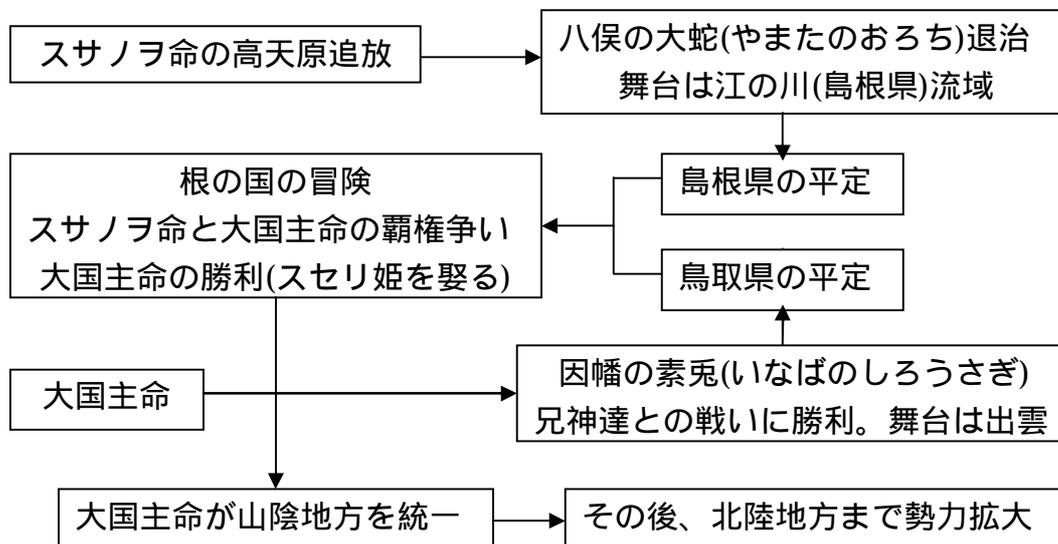
注) 日本書紀・風土記の編纂は国家事業。

) 出雲地方が大和朝廷に併合されたのは大和朝廷成立後であり、神武東征以前(大和朝廷成立以前)に国譲りされるはずがない。

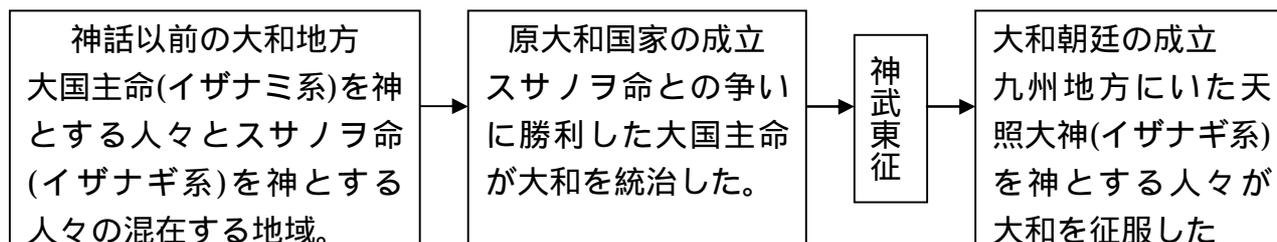
出雲国風土記に大国主命は登場しないが、「国譲り神話」とよく似た神話が記載されており、古事記の作者がそれを流用して「大国主命神話」に改竄した可能性が高い。

3) スサノヲ命と大国主命との関係

日本神話における関係



この舞台が大和だったとすると?

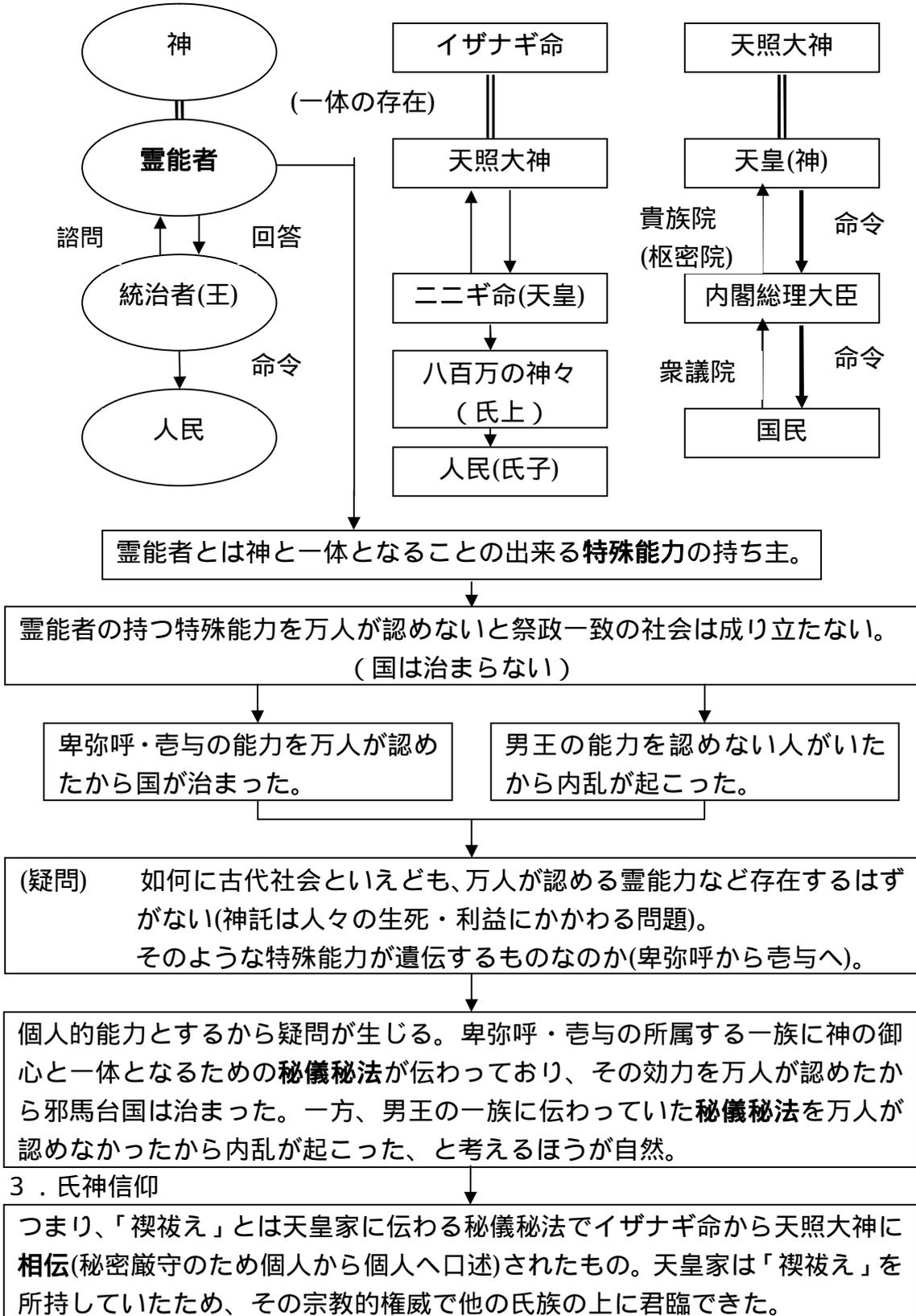


(4) 祭政一致

(祭政一致の社会の基本構造)

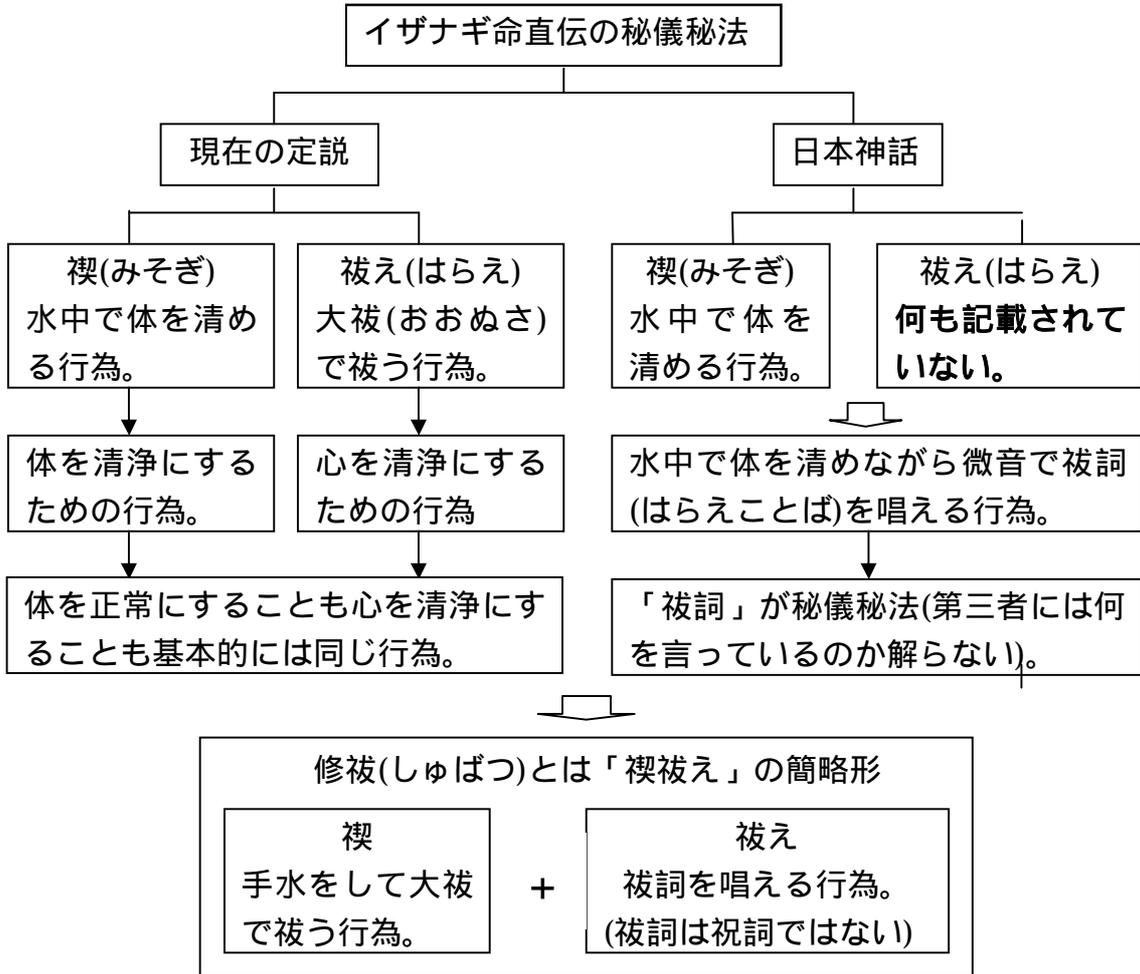
(日本神話の構造)

(国家神道の構造)

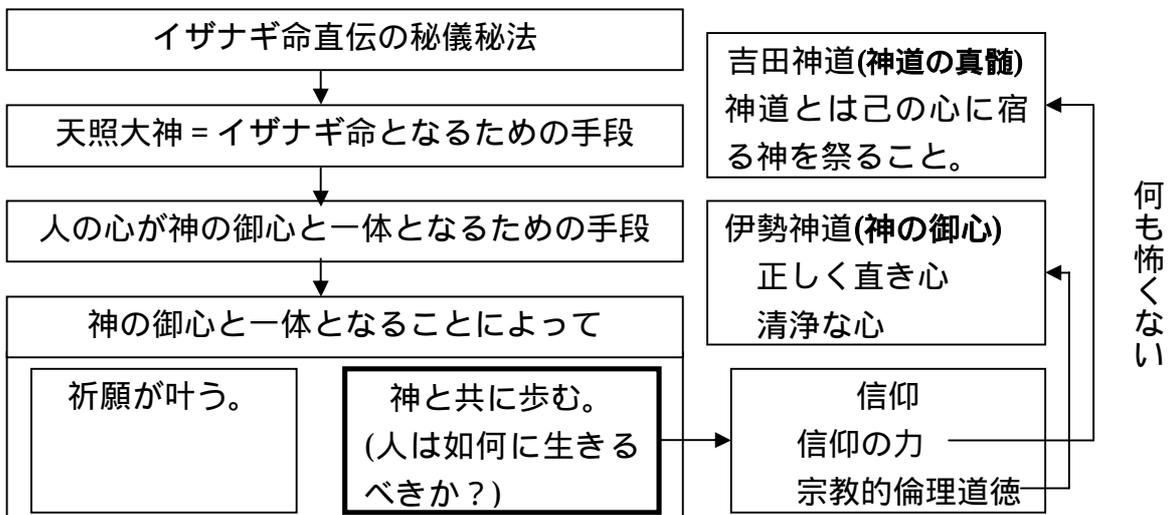


(5) 「禊祓え」とは

現在の神道は「禊祓え」を参拝前の準備行為としか捉えていない。



「禊祓え」の意義



神道講座テキスト (第4回)

平成18年6月4日(日)

新熊野神社